

長崎北病院 伝言板 2月号

令和5年2月1日発行

2月。如月（きさらぎ）。「一月往（い）ぬる二月逃げる三月去る」と言うそうです。正月明けでぼーっとしていると1月が終わり、短い2月は逃げてしまいます。

「コロナだから、寒いから」と言っていると身体も頭も弱ります。まずは立つ、始める。始めると意外とできるものです。春遠からじ。



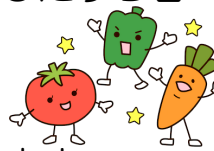
Preparation（準備）+ PDCAサイクル

2月、如月（きさらぎ）。まだ寒さが残っていて、衣（きぬ）を着る月であるから「衣更着（きさらぎ）」。

草木の芽が張り出す月であるから「草木張月（くさきはりづき）」からなどの説もあります。去りゆく冬とやってくる春がせめぎ合う季節。「雪が溶けて川になって 流れて行きますつくしの子がはずかしげに 顔を出しますもうすぐ春ですね（これがわかる人古い!）」。

今年は我が家の畑は大根が豊作でした。大根足（昔は白くてすべすべした脚のことで褒め言葉だったそうです😊）でも太もものような立派な大根が採れました。玉ねぎとニンニクは今回の寒波で雪の下になりましたが、ひたすら春を待って根を張って頑張っています。春になると新しい葉を一斉に出してくるでしょう。

寒い時期、柑橘、果樹、庭木などは休眠中。成長を止めてひたすら暖かくなるのを待っています。この時期に施すのが寒肥（かんごえ）。休眠中に肥料をやっても無駄？とお思いでしょうが違うのです。寒い時期に土を入れ替えたり、肥料をしっかり効かせます。これが大切。



この時期に与えた肥料は数か月かけてゆっくり分解され、春になるころに栄養となって土に行きわたります。春は新芽のシーズンですから栄養を沢山必要とします。冬のうちに撒いておいた寒肥は春先に土の肥料分を充実させる働きがあるのです。畑の土作りも同じ。作物を植える時にバタバタと土づくりをしても間に合いません。しっかり耕しておくことが肝要。まずは土が柔らかくなります。さらに、土壌の通気性と透水性が良くなり、作物の根の成長に適した状態になります。通気性がよくなると土壌微生物が活性化し、有機物の分解が進みます。土の下層部分にも肥料が運ばれ、堆肥、肥料が均一に混ぜ合わされます。良い土の中で植物はしっかり根を張って大きく育ち、立派な実がなります。急ごしらえの硬い土では酸素、肥料も行き渡らずそれなりにしか育ちません。

何事も、『準備』が大切です。

情報を収集し、必要な物、人を集める。
実行の時期から遡って（さかのぼって）
段取り、スケジュール作成。そして実行。

その後は結果を検証し、何が不足だったかどうすれば良かったか検討する。いわゆるPDCAサイクルです。PDCAサイクルは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字です。しかし、**その前に Preparation（準備）が必要**だと思います。P+PDCAサイクルです。農業も仕事も何かをうまく行うには同じサイクルが必要。いきなり思いついて取り掛かってもうまくいきません。Preparation（準備）/foundation（土台）がまずは基本です。

コロナの時代。できない、やりにくいことが多いと思いますが、この時期でも準備、計画はできます。いつでも種まき、発芽ができるように準備しましょう。（分かっている出来ないのが人間。凡人の悲しさかな）（A.S.）

Preparation準備

